

第1回

しながわ 平和のための戦争資料展 ＝戦争と子ども＝



八王子相即寺(延命閣地蔵堂)にあるランドセル地蔵
お地蔵さんは、今も黙って明治君(原国民学校)のランドセルをしょっています。

とき 8月8日(水)～11日(土)
ところ 品川・勤労者福祉会館・展示室

＜特別企画＞ 映画・スライド・戦争の話——小講習室
主催 「しながわ・平和のための戦争資料展」実行委員会
事務局 〒142 品川区程原2-17-19-702 TEL. 787-1522

第1回 「しながわ 平和のための戦争資料展」を 開くにあたって

敗戦後39年たとうとする今、戦争を知らない世代が多くなってきています。戦争体験者の数も減り、資料も年月がたつにつれ、散逸する危険すら生まれています。

そこで、私たちは、「戦争の恐ろしさと平和の尊さ」を伝えたいと、品川における戦争体験、戦争遺跡を掘り起こし、継承する活動を展開してきました。そして、ささやかなとりくみではありますが、少しでも「平和のために」役立つことを願って、今年初めて「しながわ平和のための戦争資料展」を開催することにしました。

今年は、学童疎開(1944年)の40周年にあたります。この展示会は、「戦争と子ども」をテーマに企画いたしました。ご覧いただき、戦時下の子どもたちがどういう状況に置かれていたのか、そして現在の子ども・教育はどうなっているのかを共に考えていきたいと思います。

開催にあたり、多くの方々からの資料の提供、物心両面にわたる援助をうけてまいりました。

核戦争の危機が叫ばれる折、再び過去のあやまちをくりかえすことのないよう今年度の展示が少しでも「平和のために」役立つことを願います。地域の人々の戦争体験を語りつぎ、戦争の持つ残忍さを明らかにし、戦争をくいとめる力を大きなものとし、平和を守る人々の輪を広げていきたいと思います。

1984年 8月

「しながわ平和のための戦争資料展」実行委員会事務局 田所恭介

〈よびかけ人〉

- ・稲本 やす (品川母親連絡会長)
- ・上平 泰博 (児童センター職員)
- ・岡部 達男 (自治体問題研究会)
- ・扇谷 道子 (中学校教諭)
- ・桐島 まさ江 (こぐま保育園々長)
- ・斎藤 誠 (保問協会長・弁護士)
- ・佐賀 浩 (法政大学・助教授)
- ・谷岸 千恵子 (西品川母親グループ)
- ・中山 伸 (教職員組合役員)
- ・藤江 新三 (国鉄職員)
- ・藤田 秀雄 (立正大学・教授)
- ・山本 典人 (小学校教諭)
- ・山本 昌男 (小学校教諭)

日本の真の姿を伝える迫真の通史。

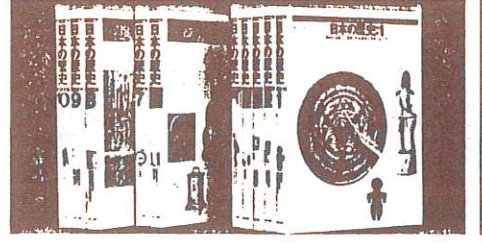
家永三郎編・全10巻

近・現代史に重点を置いた構成。原始社会に始まって戦後の復興期まで、とった従来の歴史の通念を破り、三分の二にあたる六巻分が明治維新以降を扱い、戦後史だけでも一巻、最終巻では田中内閣の崩壊という最近史までも記しています。

歴史を浮きぼりにする記述。事象や事実にただ時間的に羅列するのはなく、系統的に関連づけてゆき、歴史の中に生きる人間像をできる限り浮きぼりにするよう、わかりやすく記述しました。見る歴史の楽しさも味わえる。

ほるぶ「日本の歴史」は各巻平均、百五十点、総数二千点をこえる写真・図版を採り、見る歴史の楽しさも味わっていただけます。

●通本1冊1A4判変型・角背上製・各巻16頁/カラ132頁/写真100枚/平均30点
●現金価格(定価)35,000円

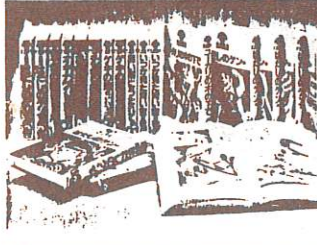


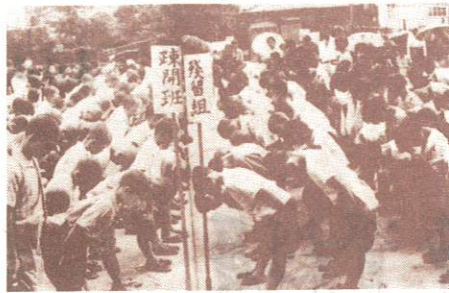
戦争の本質と原爆の悲惨を、迫真のタッチで描く ほるぶ版 中沢啓治 刊行『汐文社』ほるぶ出版

反核・平和へのほるぶの願いを込めて...

東京40万、ベルリン40万、そしてニューヨーク100万。反核の叫びは、今、世界中にとどろいています。この叫びを著実に広げていく草の根の一本として、中沢啓治・平和マンガ作家の筆を借りて、世帯を越えて感動をよぶ中沢マンガ原爆に父と師弟を一瞬の内に誓われながら、母を助け明くる、たくましく生きるゲンガの姿...。親子、先生と生徒、そして戦争体験のあるものも、ないものも共に語りあえるテーマを中沢マンガが提供します。

●通本1冊1A5判/上製本/厚紙装
●現金価格(定価)45,600円





疎開に出発する子どもたち

戦争と子ども

I 品川の子どもと疎開

疎開列車 父母と別れて 集団疎開へ
昭和19年8月 焼きつくような暑い日
浜松へ走る東海道線
窓は暗幕でびっちりとしめられ
列車の中での防空演習が始まった。
小さな瞳は 不安にゆれた
列車の中も 戦場だった。

東京都は、昭和19年3月、学童の疎開勧奨の方針をとり、各区市町村を通じて各家庭まで徹底させ、3学期授業終了のくり上げも指示しました。次いで、6月には政府の閣議があり、学校単位の集団疎開を決めました。

品川では、8月4日に第1陣として、城南第二国民学校が西多摩郡瑞穂町に疎開しました。この日、板橋や練馬など6校も群馬などの疎開地へ出発していきました。こうして、9月までには20万人以上の学童が親もとを離れていったのです。

リュックサックを背負った学童たちは、教師に引率され、涙で見送る親たちと別れ、何時間も汽車にゆられて、遠く富士、青森の疎開先の寺や旅館に行きました。

集団疎開は、初めの20年3月までの予定が、戦況の悪化により、さらに1年延長を決定し、このために3月で卒業生は親許に帰されました。江東区では3月9日に帰京した学童が同夜からの大空襲で死亡する者も出ました。

II 空襲

品川からの学童疎開児のなかには、アメリカ軍の機銃掃射によって二度とかえらぬ旅となった子どもが2人います。そのうちの1人が原国民学校の神尾明治君だったのです。明治君のランドセルをしょったお地蔵さんは、八王子相即寺にあります。(表紙)

静岡や浜松郊外に疎開していた荏原地区の児童たちも、本土決戦にそなえて入ってきた軍隊に追われるようにして青森へ再疎開することになりました。時に、昭和20年6月初めのことでした。

この時、品川・荏原区は5月24日の南部大空襲により、区内は一望の焼け野原になっていました。

こんな中、子どもたちを乗せた再疎開列車は、夜の真暗な品川駅にすべりこんでいました。ホームでわが子を呼び声がひびきました。それでも、わずか十分間の逢瀬は、またたく間に過ぎてしまいました。やがて汽車は……

III 戦時下の庶民の生活

1943(昭和18年)年、それまで兵役を猶予されていた学生も召集されることになりました。(理科系を除く) 出征する学生は、生きて帰れないと思いつつ、“御国のため”に“天皇陛下万歳”を叫んで“名誉の戦死”をするために戦場に向かいました。悩みながらも“勝ってくるぞと勇ましく、”出征していきました。

この年の8月には、上野動物園の25頭の猛獣たち——象やライオンや虎などが殺されました。“一億一心火の玉だ、”と国民の戦意を高揚するいけにえにされたのです。政府は、“欲しがりません、勝つまでは”と耐乏を強制し、鬼畜米英と敵意をあおり、ジャズなど1000もの英米曲を禁止しました。六大学野球も高校野球も中止になりました。

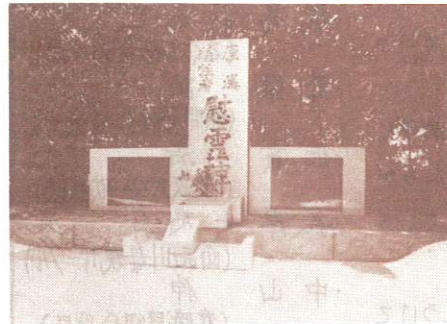
学校教育は、軍国主義一色にぬりつぶされていきます。この当時の国語教科書は「ススメ ススメ ヘイタイ ススメ」などのように、国民を戦争にかりたてるものが多くせられていました。

武蔵小山商店街も、物資欠乏の商店経営から一転し、満州開拓団が結成され、満州の原野を開拓し、食糧増産のため一大決意をし、昭和18年10月1300余名もの団員家族が出発していった。この旅立ちは、終戦時の集団自決へと悲惨なドラマを生んでいったのです。

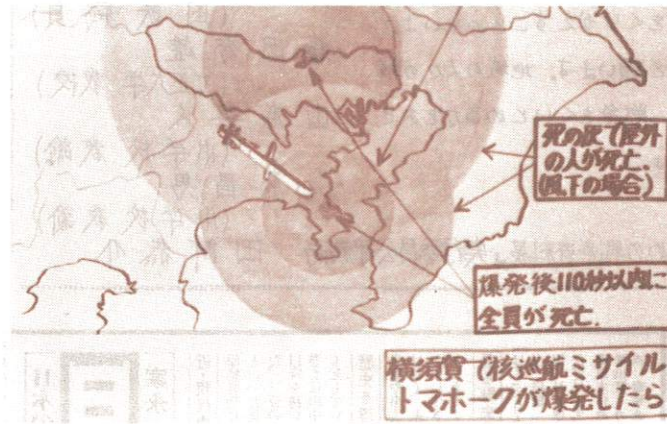
IV 現代の平和の問題

……先生、わたしを助けてくれますか……

先生、東京に原子爆弾が落とされたら、わたしたちは、みんな死んじゃうのですね。ほんとうにそうなったら、どうすればいいのですか。先生、わたしたちを助けてくれますか。助けてくれますよね。だって、先生ですもの。



東海寺にある原爆犠牲者の慰霊碑



<被爆国の私たちの願いは>

広島・長崎の悲しみや苦しみは、二度とくりかえしてはなりません。

広島・長崎からのよびかけ、それは、一日も早く核兵器をなくすことです。

日本においても、核兵器をつくらず、持たず、持ち込ませずの非核三原則が厳守されるよう、法律が作られることを望みます。

教科書検定の中で歴史の真実に対する歪曲が行われ、「憲法改正」の動きさえ進行している今、“子どもたちに再び銃をとらせない”ためにも、平和と一人ひとりの人間の尊さを子どもたちに学びとってもらいたいと心から願うものです。

地球が、ふたたび、そして最後の、核戦争の戦場となることのないように。

ほるぷのサービスシステム

- 全巻先渡し
- 全国無料直送
- 分割払い



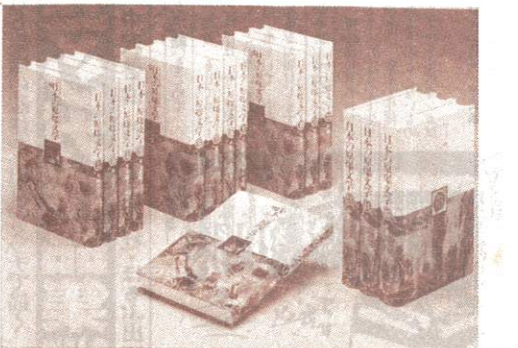
家庭の図書室づくり

ほるぷ

〒160 東京都新宿区新宿2-19-13
TEL.03(356)6211(大代)



子どもを愛しつづけたひろの清新な童画の世界
いわさきちひろの世界



世界で最初の被爆国で生まれた原爆文学をはじめて集大成
日本の原爆文学